

城中村における路地の空間構成

中国広州市城中村の生活環境整備に関する研究・その3

中国広州市 城中村 路地
空間構成

正会員 ○ 加納 一真*¹ 同 安森 亮雄*²
同 三橋 伸夫*³ 同 本庄 宏行*⁴
同 阿部 秀顕*¹ 同 黎 庶旌*⁶

1. 序

本編は前2編に引き続き、広州市黄辺村を対象とし、城中村¹⁾の高密度な居住空間²⁾(図1)の構成要素として貴重な外部空間である路地の空間構成を明らかにすることにより急速に変化する中国の都市外縁部の空間構造の一端を考察することを目的とする。

2. 城中村の路地形状

黄辺村は農村集落であった旧村と呼ばれる地区と、そこから拡大した新村からなり(図2)、本研究では旧来の空間構造を残す旧村を対象とする。旧村は西側を国道106号、北側を后園街³⁾、東側を柿園北一巷、南側を黄辺中街という外周路に囲まれ、その内側に16本の路地が特徴的な形状の動線網を形成している。例えば分析例(図3)の路地は南北の外周路を接続し、その中間で分岐やループ状の部分が見られる。そこで路地の形状を外周路から最も遠くまで延びる部分(以下、主路)と主路から左右に分岐する部分(以下、分岐路)に分けて行止りや通り抜けを整理し⁴⁾(表1)、併せて路地の幅員が広がる小広場やループ状の部分的要素(表2)、井戸等の付随的要素(表3)を検討した。その結果、分岐の無い行止りであるア、他の路地に繋がる分岐路と行止りの分岐路があり小広場等の部分的要素によって複雑な路地形状をなすカ2などの7パターンが得られた。

3. 空地と建物公開による路地の拡張

城中村には旧来のレンガ造の低層建物や近年建て替えられたRC造の高層建物が建ち並び、その地上部が店舗等として公開された空間(表4)や未利用地等の空地(表5)により路地が拡張されている場所がみられる。例えば分析例では、路地に面する建物の1階に半屋外部分(以下、建物公開)が存在し、それらの連鎖や面する空地により狭隘な路地が拡張されている。そこで建物公開の連鎖と空地について検討した(表6)。その結果、外周部に接する隅部に空地が位置するA1、路地の中間に空地が複数あるA2、公開された建物の連鎖により路地が拡張されるB、空地と公開された建物の連鎖が共にみられるCのパターンが得られた。また外周路は全体的に公開された建物が連鎖するBに該当した。

4. 城中村における路地の空間構成

4.1 路地空間の構成類型 2章で検討した路地形状と3章で検討した路地の拡張を2軸としたマトリクスを作成し、複数資料が該当した空間構成として①~③-2の路地の構成類型が得られた(表7)。類型①は主路が行止りで隅部に空地が位置するものである。②は通り抜けでき直線的な主路から分岐する形状で、空地により路地が拡張されている。同様に③は通り抜けでき、さらに地上部の公開が連鎖している。特に③-2は小広場等により複雑な形状を成している。



図1 広州市の城中村(航空写真)



図2 広州市黄辺村

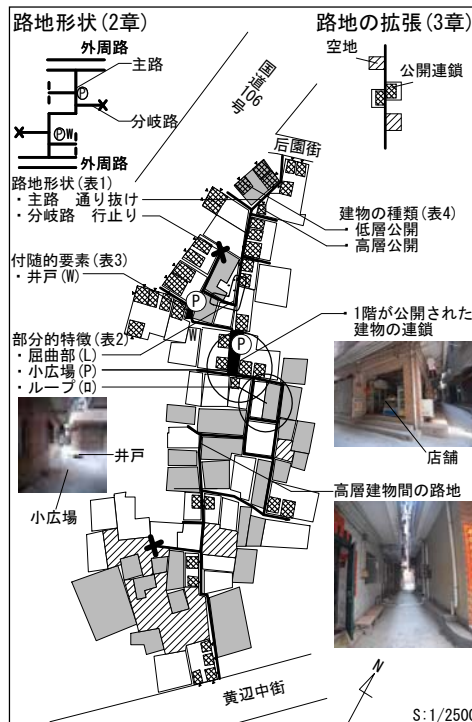


図3 分析例(No.4三稜巷)

表1 城中村の路地形状

主路	行止り	他の路地へ接続	通り抜け
分岐路	(3)	(3)	(10)
分岐無し	ア(2) No. 6 No. 13		
	(2)		
他の路地に接続		ウ(2) No. 11 No. 3②(2)W(1) DL	オ(1) No. 15L
	(3)		
行止り有り	小広場無し		カ1(5) No. 9□ No. 10G(2) No. 12 No. 14 No. 16□
	(5)		
小広場有り	イ(1) No. 7P(2)	エ(1) No. 5P(1)G(1)L	カ2(4) No. 10②(2)L No. 2②(1)□L No. 4②(2)□L W(1) No. 8②(2)L G(3)
	(1)(6)		

表注) 記号は表2~3に準じ、()内の数字は該当する要素の数を示す。

表2 主路の部分的特徴

小広場(P)	屈曲部(L)	ループ(ロ)
三叉路(10)	四叉路(2)	分岐無し(1)
	(7)	(5)

表3 路地の付随的要素

ゲート(G)	井戸(W)
(6)	(2)

表注) 小広場は路地の幅員が2倍以上広がる部分とした。

Spatial Composition of Alley in the Urban Village

Kazuma KANO, Syosei REI, Hideaki ABE,

-A Study on Improvement of the Urban villages in Guangzhou city,China part3- Hiroyuki HONJO, Akio YASUMORI, Nobuo MITSUHASHI

4.2 路地の分布による城中村の地域的特徴 前節で得られた路地の構成タイプの分布から城中村の地域的特徴を検討した(図4)。まず外周路では全体的に1階が公開された建物が連鎖している(B)。その内側では中央部に主路が行止りである路地(①)が位置し、その他は主に通り抜ける路地により構成されている。また西部では小広場や屈曲部をもつ複雑な形状の路地(③-2)が集中し、東部では直線状で空気を伴う路地(②, ③-1)位置している。さらに類型外の路地の特徴として、行止りが無く他の路地に繋がるもの(No.3, 11, 15)は東西に位置し、心巷と呼ばれる公開された建物が多く連鎖する特徴的な路地(No.8)が中央部に位置している。

5. 結

城中村の路地についてその形状及び路地に面する空地と建物を検討することから構成類型を導き、その分布により地域的な特徴を検討した。その結果、広州市黄辺村の城中村は、1階が公開された建物が連鎖する外周路に囲まれ、その内側は、心巷という公開された建物が連鎖する路地を中心に行止りが多い中央部、小広場や屈曲部等の複雑な形状で建物が公開されている路地からなる西部、直線状で空気を伴う路地からなる東部により成立していることが明らかになった。このことから中国の都市外縁部における城中村では、公開された外周部とその内側という内外の関係を基本としつつ、高密度な都市環境が路地による地域の特徴を伴って成立しているという空間構造が明らかになった。

- 注1) 中国語で「城」は都市を意味し、「城中村」は「都市の中の農村」を意味する。
 2) 人口密度は97,400人/k㎡であり、日本で最も高い東京都中野区(20,170人/k㎡, 2006年現在:統計局資料)と比較して極めて高密度な地域である。
 3) 后園街は旧村の後方(北)にある庭園の街路を意味することから后園街以北の旧村は対象から除外した。
 4) 中国の道路には「路、街、里、巷、約」という区分があり、「街」は概ね本研究の外周路、「里、巷」が路地に相当する。主路同士を繋ぐ分岐路の中間点で資料を分け、16本の路地を抽出した。

表7 路地の構成類型

路地の拡張 路地形状	主路行止り		他の路地へ接続		主路通り抜け		
	ア 分岐路無し (2)	イ 分岐路行止り (1)	ウ 分岐路他の路地 (2)	エ 分岐路行止り (1)	オ 分岐路他の路地 (1)	カ1 分岐路行止り 小広場無し (5)	カ2 分岐路行止り 小広場有り (4)
A1 隅部 (2)	① No. 13 No. 6						
A2 空地有り (6)		No. 7	No. 11		No. 15	② No. 16 No. 14 No. 10	
B 公開連鎖 (1)							No. 8
C 公開連鎖+空地 (7)			No. 3	No. 5		③-1 No. 12 No. 9	③-2 No. 4 No. 2 No. 1

表4 建物の種類

公開高さ	非公開	建物公開
低層		
高層		

表5 空地

未利用地	建物の前庭

表6 要素による路地の拡張

建物公開	空地	建物公開の連鎖無し	建物公開の連鎖
空地無し		No. 8 *外N *外E *外S *外W (0)	B (1)
空地有り		No. 6 No. 13 No. 7 No. 10 No. 11 No. 14 No. 15 No. 16 A1 (2), A2 (6)	C (7)

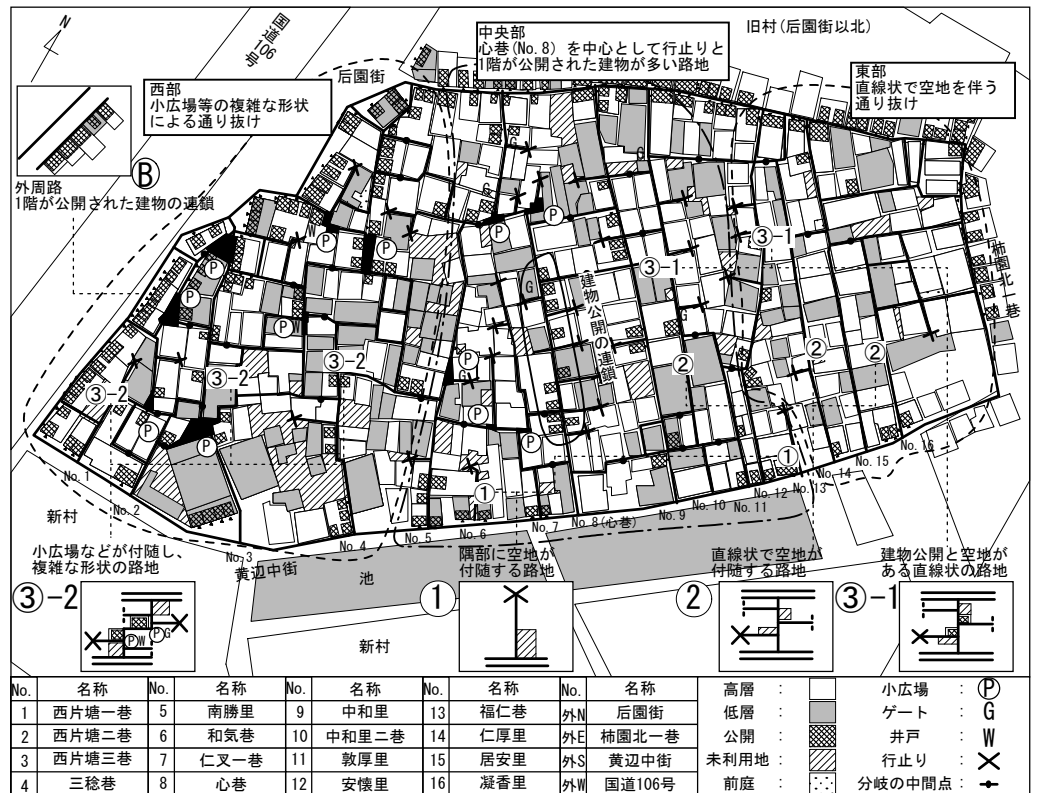


図4 路地の分布による城中村の地域的特徴

*1 宇都宮大学大学院工学研究科 博士前期
 *2 宇都宮大学大学院工学研究科 准教授 博士(工学)
 *3 宇都宮大学大学院工学研究科 教授 工学博士
 *4 宇都宮大学工学部技術職員 *5 宇都宮大学大学院工学研究科 博士後期

*1,*5 Graduate Student, Graduate School of Eng., Utsunomiya University
 *2 Assoc.Prof., Dr. Eng., Graduate School of Eng., University
 *3 Prof., Dr. Eng., Graduate School of Eng., University
 *4 Technical Staff, Faculty of Eng., Utsunomiya University